

I 公開講座 令和3年度 ○講座数8講座

毎年、市民向けの様々な公開講座を、本学及び岐阜市生涯学習センターにおいて開催している。

回数	講座名	担当教員	日時	開催状況	場所	料金	定員	のべ人数	有料対象者
1	連携講座 認知症の理解	食物栄養学科 教授 高橋 秀典	4月24日(土) 10:00~11:30	開催済	ハートフルクスエアーG 2階 大研修室	受講料 300円	45名	50名	50
2	あの文化とこの文化が出会ってー死者と生者の間の主導権ー	国際文化学科 教授 川上 新一	7月10日(土) 10:30~12:00	開催済	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	8名	8
3	伝統食がそれぞれの時代と出会ってー伝統食の変化と継承ー	食物栄養学科 准教授 堀 光代	8月7日(土) 10:30~12:00	開催済	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	8名	7
4	着物とヨーロッパが出会ってージャポニズムの影響における着物とファッションー	生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子	9月4日(土) 10:30~12:00	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止	メディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	0名	0
5	シェイクスピアが現代文化と出会ってーシェイクスピア喜劇の解釈の広がりについてー	英語英文学科 講師 鈴木 辰一	9月19日(日) 10:30~12:00	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	0名	0
6	「愛の讃歌」とシャンソンーエディット・ピアフと越路吹雪ー	英語英文学科 名誉教授 山本 健一	9月11日(土) 10:30~12:00	新型コロナウイルス感染症 拡大防止及び講師の体調不良のため中止。	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	0名	0
7	英語の仕組みを意識した辞書活用法	英語英文学科 教授 森藤 庄平	10月9日(土) 10:30~12:00	開催済	ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ	受講料 1,000円	20名	6名	4
8	カラーユニバーサルデザイン講座	生活デザイン学科 准教授 小川 直茂	5月29日(土) 13:00~16:00	受講申込者なしのため未開講。	岐阜市立女子短期大学 1-401	受講料 1,500円 テキスト代 2,530円	20名 ※対象20歳以上	0名	0
9	ファッション販売能力検定受験対策講座	生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子	9月13日(月)及び 10月18日(月) 全2回 18:30~20:00	受講申込者なしのため未開講。	岐阜市立女子短期大学 1-408	受講料 1,500円/回 テキスト代 2,310円	20名 ※対象20歳以上	0名	0
10	管理栄養士国家試験受験対策講座	食物栄養学科 教員	9月28日(火)~ 11月9日(火)の毎週 火曜 全7回 19:00~21:00	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止	岐阜市立女子短期大学 1-401	受講料 1,500円/回	20名 ※対象20歳以上	0名	0
11	繊維製品品質管理士(TES)受験対策講座	生活デザイン学科 准教授 太田 幸一	10月~7月の原則第 2金曜 (2月・3月のみ第3金曜) 19:00~20:50 全10回(令和3年度 は6回)	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止	岐阜市立女子短期大学 3-505	受講料 1,500円/回 テキスト代 10,400円	20名 ※対象20歳以上	0名	0
12	「遊び」とデザイン~ヨーロッパのおもちゃを中心に	生活デザイン学科 准教授 小川 直茂	4月25日(日) 10:00~11:30	開催済	岐阜市立女子短期大学 和室	受講料 1,000円	10名 ※対象0歳以上	12名	2
13	生活・創造 ペン型3Dプリンターで立体オブジェを作ってみよう	生活デザイン学科 准教授 奥村 和則	7月10日(土) 13:30~15:00	開催済	ぎふメディアコスモス あつまるスタジオ	受講料 0円 材料費 500円	12名 ※高校生以下対象。 ※小学生低学年以下 は保護者同伴。	6名	0
14	版画講座 叩いてつくる厚くて硬い土壁について知ろう、やってみよう	生活デザイン学科 准教授 畑中 久美子 岐阜左連青年部	10月2日(土) 10:00~12:00	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止	岐阜市立女子短期大学 和室および構内	受講料 1,000円	10名 ※対象10歳以上	0名	0
15	インテリアに飾るクリスマスリースをつくろう	生活デザイン学科 講師 加藤 祥子	11月13日(土) 13:30~15:00	開催済	岐阜市立女子短期大学 3-411	受講料 1,000円 材料費 500円	10名 ※対象10歳以上	11名	0
16	生テ特別講義 スポーツコンテツビジネスとデザイン	外部講師 戸井田 朋之	7月13日(火) 14:40~16:10	開催済	岐阜市立女子短期大学 1-501及びオンライン	0円	なし	104名	0
17	生テ特別講義 (2回目) 講座名未定	講師未定	日程未定	新型コロナウイルス感染症 拡大防止のため中止		0円	なし	0名	0
合計								205名	71名

I 公開講座

1) 岐阜市生涯学習センターとの連携講座

公開講座 1 認知症の理解

講師名：食物栄養学科 高橋 秀典

開催日時：令和3年4月24日（土）10:00～11:30

会場：ハートフルスクエア G

受講者数：約 45 名

認知症の初期症状や治療法など基本的な内容と、予防に良いといわれている生活について概説した。

具体的には、認知症の分類、初期症状、診断方法、治療などについて概説し、近年のWHOの知見などから、健常者や、認知症を疑う症状のある場合の、認知症予防や進行の抑制に効果があるとされる生活習慣などを紹介した。

I 公開講座

2) あの文化とこの文化が会って—変化もしくは継承—

公開講座2 仏教と在来の信仰が会って —死者と生者の間の主導権—

講師名：国際文化学科 教授 川上 新二

開催日時：令和3年7月10日（土）10：30～12：00

会場：ぎふメディアコスモスかんがえるスタジオ

受講者数：8名

生者と死者との関係をどのようにとらえてきたかについて、仏教が浸透した日本と儒教の影響が強い韓国を比較した。死者は怨みを抱いて生者に禍をもたらす恐ろしい存在とされる場合、死者が生者よりも優位に立ち、死者に主導権があるととられる。それに対して、死者は生前に犯した罪のために苦しんでおり、その苦しみから逃れるためには生者に救いを求める存在とされる場合は、生者は死者よりも優位に立ち、生者に主導権があるととられる。日本と韓国の説話を資料にして、仏教の影響が強い日本の説話には、死者よりも生者に主導権がある話が多く語られる一方、儒教が浸透した韓国の説話には、生者よりも死者に主導権がある話が多いことを紹介した。このことから、日本と韓国では死者に対する考え方に違いがみられることを指摘した。

I 公開講座

2) あの文化とこの文化が会って—変化もしくは継承—

公開講座3 伝統食がそれぞれの時代と会って —伝統食の変化と継承—

講師名：食物栄養学科 准教授 堀 光代

開催日時：令和3年8月7日（土）10：30～12：00

会場：ぎふメディアコスモスかんがえるスタジオ

受講者数：7名

本講座の共通テーマ「あの文化とこの文化が会って—変化もしくは継承—」の中の食分野の講座である。コロナ禍により、昨年度開催予定であった公開講座を本年度（令和3年度）に実施した。

現代は、様々な社会環境の変化により、これまで親から子に伝承されてきた家庭料理を継承していくことが難しくなっている。さらに、年中行事、通過儀礼、地域の祭りなどの行事と深くかかわる行事食も、家庭料理と同様、自宅で作る事が少なくなり、外食などを利用する機会が多くなっている。このような時代背景に鑑み、私が所属する一般社団法人日本調理科学会では、「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」をテーマとし、平成24年度から全国の各都道府県の会員が調査を開始した。岐阜県では、10名の学会員が参加して調査を行った。調査の成果は、季刊誌の別冊『うかたま』への掲載、学会発表、地元の新聞での連載等で発信を行ってきた。

今回の講座では、調査結果を元に、岐阜県内の各地域の家庭料理、行事食について紹介した。地元の食材を利用した伝統的な作り方から現代風のアレンジ料理まで紹介した。また、地域が異なることによる作り方の違いにも興味深い内容があるため、詳しく解説をした。さらに、今後の伝統食の継承を考えるために、食育関連の調査データを示し、継承していくための方法を考える機会とした。

会場では、「久しぶりになつかしい料理を見ることができた」との声が聞かれた。また、栄養士として働いている卒業生を目にすることができた。受講者の一人ひとりが自分の地域や食に関する仕事を通じて岐阜県の家庭料理をどのように繋げていくべきかを考える場となった。

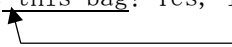

I 公開講座

3) 社会・文化

公開講座 4 英語の仕組みを意識した辞書活用法

講師名 : 英語英文学科 教授 森藤 庄平
開催日時 : 令和3年10月9日(土) 10:30~12:00
会場 : ぎふメディアコスモスかんがえるスタジオ
受講者数 : 6名

講座内容は、暗記の英語から理解の英語への橋渡しをするために、「it」を取り上げた。[it=「それ」]とただ暗記するだけでなく、英語の仕組みを「意識」して勉強しなければならないこと伝え、そのために辞書をどのように活用すべきかを具体的に紹介した。辞書はitに関して、以下の用法があることを解説していることを示した。

1. a. Do you like this bag? Yes, I like it. (前方照応的(前を指す))

- b. It is delicious, this coffee. (後方照応的(後を指す))

- c. “What was that noise?” “It was our cat”
(言語外照応的(1a・1bと異なって文脈によらず、指で指示できる))

今回は1cの言語外照応的用法を解説するために、英会話の表現(cf. “Who is it?” “It’s me, Jim. It’s your father on the phone.”)や映画「IT」, 「ハリーポッター」 「ローマの休日」, または音楽「Let it be」 「Let it go」などを取り上げた。その過程から「it」が他の代名詞(they, he/she)と比べると指せる範囲が「it > they > he/she」のように幅広いことが分かるためには英語を意識する必要がある。itが物・生き物・人だけではなく、天気・時間・環境・人生・気味の悪いこと・良いことなどなんでも指せるのに対して、theyは複数の人、生き物、物などのみを指し、he/sheはさらに性別と有生などという制約が加わり指せる範囲がさらに制限される。

以上の内容で、英語の仕組みを「意識」して辞書をどのように活用するのかを示して「暗記の英語から「理解」の英語への橋渡し」を行った。

I 公開講座

4) 生活・創造

公開講座5 「遊び」とデザイン～ヨーロッパのおもちゃを中心に～

講師名：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂

開催日時：令和3年4月25日（日）10：00～11：30

会場：岐阜市立女子短期大学 和室

受講者数：12名

前年度の内容を踏襲し、スイス・ネフ社の積み木や玉の道おもちゃのキューボロなど、ヨーロッパの優れたおもちゃが備える遊びの特性を、おもちゃの「形」「機能」「素材」「つくり（品質）」などのデザインの側面から、实例を交えて解説した。講座の後半では実際におもちゃに触れてその魅力を実感するためのワークショップを行った。今年度は子どもの参加者が例年と比較して多く、講座参加者はおもちゃが持つ遊びのポテンシャルとデザインとの関係性について理解を深めていた。

I 公開講座

4) 生活・創造

公開講座6 ペン型 3D プリンターで立体オブジェを作ってみよう

講師名：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則

開催日時：令和3年7月10日（土）13：30～15：00

会場：ぎふメディアコスモス つながるスタジオ

受講者数：約9名（制作補助を兼ねた保護者数3名）

デジタル・ファブリケーションの代表である3Dプリンターは、3D-CADでの作図など専門的な知識を要し、エントリーレベルのモノづくり体験にはあまり適していない。そこで、直感的に造形可能なペン型の3Dプリンターを本講座では紹介し、その優位性と、応用性について説明し、参加者に体験してもらった。

受講生の多くは小学生であったが、工業高校の生徒の参加もあり、実用性や表現の幅などを確認しつつ、作例を参考にモデリング以降の展開方法を示した。

操作には知識を蓄積する必要があると、それにより豊かな表現が可能となることから、この講座を体験した受講生が自宅等にて引き続き体験できるように、エントリーレベルのデバイスの紹介等も行った。



I 公開講座

4) 生活・創造

公開講座7 インテリアに飾るクリスマスリースをつくろう

講師名：生活デザイン学科 講師 加藤 祥子

開催日時：令和3年11月13日（土）13：30～15：00

会場：本学 学生ホール

受講者数：11名

プリザーブドやドライの植物・木の実を使って手のひらサイズのリースを作成するワークショップを開催した。ホットボンドを用いたリースの作成方法について解説を行い、カラマツやスターアニス、ワタカラ、カネラなど様々な素材から参加者に選んでもらい、リースの飾りつけを行った。参加者それぞれに個性的なリースに仕上がり、季節を感じさせる植物とのふれあいを持つことができた。



I 公開講座

5) 生活デザイン学科特別講義

公開講座8 スポーツコンテンツビジネスとデザイン

講師名：株式会社スポーツシンクタンク 代表取締役社長
順天堂大学 スポーツ健康科学部客員教授 戸井田 朋之氏
開催日時：令和3年7月13日（火）14：40～16：10
会場：本学大講義室（1-501）、および、オンライン
受講者数：約106名

オリンピックイヤーであることから、スポーツコンテンツやスポーツウェアと経営の観点から、株式会社スポーツシンクタンク代表取締役社長 戸井田 朋之氏をお招きして、特別講義を行った。

戸井田氏は株式会社デサント在職中の海外駐在時に IOC 国際オリンピック委員会の担当や、有名スキースクールとのサプライ契約の獲得などの実績を持ち、帰国後も、スキーウェア・水着などを中心に営業・商品企画を担当後、デサントブランドの商品企画部長として、野球・アスレチックウェア・ウィンタースポーツ関連の商品企画、経営管理、欧米提携先との契約交渉窓口として活躍された。ロンドンオリンピック日本代表ユニフォームについても、担当されたものが高い評価を得た。

特別講義の内容は多岐に渡り、学生としての心得から始まり、ファッションブランド分析、スポーツウェアの開発手法、オリンピックの運営と各国間での影響について等であった。受講生らは、通常、触れることのない知識に触れる機会となり、刺激を受けたようであった。新型コロナの関係によりオンラインでの実施となったが、また機会があれば、対面での特別講義を実施したい。